

令和 6 年度 国本中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤に、やさしい心とたくましい気力・体力をもち、社会の発展に貢献できる人間を育成する。

（2）具体目標（具体的な生徒像など）

- ① 健康で意志の強い生徒 （健康教育の推進）
- ② 自ら学び創造力のある生徒 （自己教育力の育成）
- ③ 心情豊かで思いやりのある生徒 （心の教育の推進）
- ④ 勤労を愛し実践力のある生徒 （文化や伝統の継承と勤労精神の涵養）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人権尊重の精神を基盤として、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力など、変化の激しい社会を生きるために必要となる「生きる力」を確実に身に付けさせる指導に力を入れ、『生徒・職員が共に成長できる学校』を目指す。そのために、人間力の形成に向けて、全教育活動を通じて、「ほめて伸ばす指導（自己存在感・自己肯定感・自己有用感など自尊感情を育む指導）」の充実を図り、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成していく。

また、こうした教育活動がより効果的に実践されるよう、学校における働き方改革を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）「生徒が明るく、いきいきと活動する学校」づくりに努める。
- （2）生徒理解に基づいた生徒指導の充実に努め、基本的な生活習慣と規範意識の育成を図る。
- （3）学習において、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒を認め生かす授業の工夫に努める。
「とちぎっ子学力アッププロジェクト」「道徳教育の充実」「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に努める。
（「宇都宮モデル」の活用）
- （4）教職員が課題を共有し、協働して教育活動に当たれる職場づくりに努める。
- （5）学校、家庭、地域の連携を深め特色ある学校づくりを推進する。
- （6）教職員一人一人の特性を生かした校務分掌を工夫することで、働き甲斐を大切にしながら、業務の効率化と働き改革を進める。

【国本地域学校園教育ビジョン】

「自ら学び 心豊かで 元気な国本っ子」～地域とともにある学校をめざして～

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法、改正教育基本法、学校教育法及び新中学校学習指導要領の関係法令、及び県教育行政基本方針、市教育委員会管理運営規則、市学校教育スタンダードの示すところに従い、本校教育課程を編成する。
- （2）学校経営方針のもと、教育課程のスリム化、重点化を図りつつ、教育目標の実現を図るために編成する。
- （3）地域や学校の実態を考慮し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた育成を通して「生きる力」の醸成を目指して、「特色ある学校づくり」の基盤となるように編成する。
- （4）全教職員の参画と教師同士の連携・協力によって編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

◇教育目標の達成を目指すチーム学校づくり

- ・生徒や家庭、地域、関係機関等と学校教育目標や学校経営の理念を共有し、その達成に向かう集団づくりの推進に努める。
- ・情報発信を積極的に行い、地域とのかかわりを深める工夫をすることで、地域の中核として愛される、開かれた学校づくりの推進に努める。

（2）学習指導

◇宇都宮モデルに基づく授業改善を通し、学びに向かう力の育成と学力の向上を目指す

- 学力向上プログラムを実施することで、基礎・基本の確実な定着を目指し、家庭学習の充実を図る。
- ・各種学習調査結果の分析をもとに、宇都宮モデルに基づく授業改善の推進を行う。
- ・E S Dの理念を生かした学習活動を推進する。

(3) 生徒指導

◇生徒一人一人の主体性を高める指導の充実を図る

- ・自分の力でやり遂げる体験や場の充実を図り、自己効力感を高める。(レジリエンスの育成)
- ・生徒のよさを認め、ほめて伸ばす指導を強化することで、生徒が自分のよさに気づき、自信を持つなど、自尊感情を高める。(レジリエンスの育成)
- ・生徒との適切な関わりにより信頼関係を構築し、状況に応じた声かけをすることで、活動の意欲を高め、粘り強く取り組ませる。

(4) 健康(体力・保健・食育・安全)

◇自ら健康・体力の向上に努め、心身ともに健康でたくましい生徒の育成を図る

- ・基礎体力の定着と個々の発達段階に応じた体力向上を図る。
- ・生徒の自主的な学習活動・啓発活動による食を含めた生活習慣の確立を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上	①学力向上プログラムを実施 ②「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善(宇都宮モデルに基づく授業改善の推進) ③朝の学習の実施で基礎・基本の定着を目指す ④週末課題を通して家庭学習の習慣づけの推進(クロームブックの活用)	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 89.0%、教職員 88.0%、保護者 81.8%で、いずれも数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・今年度の具体的な取組を見直すとともに、地域学校園学習指導部会で定めた活動方針を踏まえ、他者との関わりながら主体的に学習に取り組める生徒の育成に努める。
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答80%以上	①道徳教育・人権教育を基に、ふさわしい言葉使いやマナー、思いやりを持った行動について生徒たちが考える機会を多く持つ。 ②学校行事や各学年での体験活動、ボランティア活動等を通して望ましい人間関係の構築を図る。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒94.1%、教職員 96.0%、保護者89.1%でいずれも数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・道徳教育・人権教育を要に、学校行事や各種体験活動を継続して実施する。その際は、ふさわしい言葉使いやマナー、思いやりを持った行動の推進を学校全体で共有する。
	A3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上	①生徒会を中心とした規範意識向上のための取組の充実 ②各学年による教材研究の実施や授業見学等を行い、道徳の授業の充実を図る。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 100%と昨年度より 18.7%上がった。生徒 83.9%、保護者 83.1%で全て数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・生徒を中心とした生徒会活動を引き続き実践し、生徒の自己肯定感を高め、集団生活における望ましい行動が自発的に実践できる生徒の育成に努める。 ・同一教材による道徳の研究授業の実践や、道徳的な価値のある行事・特別活動等と連動した道徳教育の実践の継続を図る。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①適切な健康診断の実施と事後指導の徹底 ②基本的生活習慣や感染症予防の保健教育の推進 ③交通安全教室や避難訓練を通した安全指導の充実	B 【達成状況】 - 肯定的回答は、教職員が 92.0%と昨年度より 17%上がった。生徒 89.8%、保護者 88.8%で全て数値指標を達成している。 【次年度の方針】 - 健康診断や事後措置の実施から健康管理の大切さに気づき、必要な治療は早期に対応できるよう努める。 - 引き続き感染症対策を行い、生徒が心身共に健康に学校生活を送ることができるよう努める。 - 安全な登下校や災害時の対処の仕方について指導する。特に、自転車の安全な乗り方の指導を強化を図る。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒の肯定的回答 80%以上	①学習や生活において、計画的・継続的に取り組む習慣の定着を図る ②学習や部活動において、困難なことにも根気強く取り組もうとする態度を育む ③将来への希望を実現すべく計画的・継続的に努力しようとする態度を育成する	B 【達成状況】 - 肯定的回答は、教職員が 92.0%と昨年度より 13.9%上がった。生徒 89.3%で全て数値指標を達成している。 【次年度の方針】 - 各生徒が将来への希望を具体的に思い描き、その実現に近づくために、計画的に学習・生活習慣の定着と継続ができるような支援を図る。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒の肯定的回答 80%以上	①英語の授業における会話活動の充実に向けた、英語科教員間での指導法・教材等の共有の推進 ②ALTの積極的活用し、生徒との対話活動を増やしていく。	A 【達成状況】 - 肯定的回答は、教職員 92.0%、生徒 70.3%で、前年度と概ね同程度の結果となった。 【次年度の方針】 - 次年度採用教科書が、より言語の使用場面における目的・場面を意識したものに切り替わることを受け、言語活動の充実を校内英語科の重点目標とし、指導法・教材等について共有の推進を図る。
	A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、の肯定的回答 80%以上	①社会科や総合的な学習の時間（宇都宮学）における郷土学習の充実 ②宇都宮にまつわる資料を用いた道徳における郷土愛の涵養 ③冒険活動教室、社会体験学習、茶摘み体験などの活動を通して郷土を知り、伝統を継承しようとする態度の育成	B 【達成状況】 - 生徒の肯定的回答は 87.9%で約 11%の向上、教職員の肯定的回答は 80.0%で 8%の向上、保護者についてはほぼ横ばいという結果になった。 【次年度の方針】 - 引き続き、各学年の体験活動をととして、郷土に関する指導の充実を努める。
2ー(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上	①ICT機器や図書館を活用した授業の展開促進 ②図書選定委員会を中心とした、計画的な図書の補充	B 【達成状況】 - 肯定的回答は生徒 62.2%、教職員 100%、保護者 76.1%となっており、生徒、保護者ともに数値指標を下回った。 【次年度の方針】 - 教材研究における ICT 機器使用の推進を図る。
2ー(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒の肯定的回答 70%以上	①環境に対して教科横断的な視点を教師が持ち、国本地区を題材とした話題を授業の中に盛り入れるなど、生徒の環境教育への関心を高める工夫を行う。 ②SDG's 啓発活動の推進のために生徒会を中心とした定期的な呼びかけの実施	B 【達成状況】 - 生徒の達成状況は、70.6%で約 4%の低下、教職員については 76.0%で約 14%の向上、と、生徒と教員間の差異が見られた。 【次年度の方針】 - 生徒と教員が同一步調で取り組み、実践できるような教材の研究推進を図る。

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①特別支援教育の推進 ・生活や学習に困難さを抱える生徒の実態把握 ②校内支援委員会や職員研修の充実 ③教育相談部会の活性化	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、100%で、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 次年度も今年度同様、特別支援教育の実態を把握し、充実を推進する。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①アンケートによる実態把握 ②教育相談の充実 ③生活委員によるいじめ撲滅集会の実施と啓発リボンの制作	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 97.5%、教職員 100%で、いずれも数値指標を達成している。ただし、保護者は 77.8%で、数値指標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・まずは教職員の言動について見直す機会をつくり、全職員共通理解のもと改善を図る。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上	①自己存在感や自己有用感が感じられる学級経営の工夫 ②特別活動や教育相談等による温かい学級集団づくりや生徒理解 ③SC、MS、小学校、外部機関との連携	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 98.3%、教職員 100%、保護者 89.4%で、いずれも数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、さらに、保護者の理解が得られるよう、連携の強化に努める。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①学校行事や体験活動の充実 ②諸検査を基にした事例研究 ③スタンダードダイアリーを活用した生徒理解と支援の充実	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 98.3%、教職員 100%、保護者 86.5%で、いずれも数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・学校行事を生徒主体で実施する。 ・スタンダードダイアリーの活用など、日々の小さな会話の積み重ねによって、信頼関係の構築に努める。
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化				
4- (1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上	①学力向上プログラムの実践 ②教師同士の授業公開による校内研修の充実 ③宇都宮モデルに基づく授業改善の推進（めあての提示と学習の振り返りの実践） ④英語、数学におけるT・Tや習熟度別学習の充実	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 97.2%、教職員 100%、保護者 77.2%で、保護者の肯定的回答は数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ・生徒と教職員の肯定的回答がいずれも前年度より 6 ポイント程度向上していることから今年度の取組は継続する。
4- (2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定回答 80%以上	①職員へのアンケート調査を基にした校務分掌の見直しと改善 ②校務に関わる組織体制の整備と強化 ③個々の教員の専門性や能力を生かすための対応	B	【達成状況】 ・職員の肯定的回答は、92.0%で、市の平均と同じだが、昨年度の校内平均は 100%で、8.0%減少している。 【次年度の方針】 ・学年の壁を越えた情報の共有と連携の強化に努める。 ・個々の職員のそれぞれの専門性・能力を生かす校務分掌の配置に努める。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定回答 80%以上	①業務内容の見直しと改善 ②出退勤時間の管理と指導・助言 ③デジタル機器の活用 ④リフレッシュデイ設定による定時退勤の推奨 ⑤部活動活動時間の短縮化	B	【達成状況】 ・職員の肯定的回答は、96.0%で、昨年は 87.5%、市の平均は 79.1%で、数値指標も含め、全て上回っている。 【次年度の方針】 ・出勤簿や起案などミライムを活用した業務のスマート化をより進める。 ・リフレッシュデイの実用的な活用 ・部活動の地域移行・連携を推進し、教員による指導時間の短縮を図る。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①小中一貫教育全体計画の見直し ②乗り入れ授業 ③合同あいさつ運動 ④小6の進学先訪問 ⑤小中一貫各部会	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答が 85.9%で 7.1%向上した。教職員は 96.0%、地域住民は 100%と肯定的回答は数値指標を超えている。 【次年度の方針】 保護者の肯定的回答 77.9%がさらに上昇するように、各種通知で周知を図る。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①メール配信・HP活用等による積極的な情報発信による家庭との連携強化 ②地域学校園との情報交換や活動内容の連携と実践	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 76.3%で約 4%、保護者は 87.4%で 7%の向上がみられた。教員、地域住民については 100%になっている。 【次年度の方針】 ・メール配信・HP等を有効的に活用しながら、情報の共有に努め、保護者との連携強化を図る。
5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進				
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①毎月の安全点検 ②点検後の対策、修繕、報告の充実 ③美化委員による教室環境整備の推進	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員 100%、保護者 90.7%、地域住民 100%で、いずれも数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・より安全な教育環境を確保するため、様々な視点からの安全点検を行うなどリスクマネジメントの強化を図る。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①ICT 機器や図書館を積極的に活用した授業の展開促進 ②効果的な活用法に関する職員研修の充実	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員 92.0%で、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・教職員が利点を理解し、教科指導に生かせるように職員研修を充実させ、クロムブックの使い方の情報共有を図ることで気軽に使いやすい存在となることを目指す。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①学校や地域学校園の「あいさつ運動」の推進 ②授業や部活動等、学校教育全般を通じた気持ちのよいあいさつの励行	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 96.3%、教職員 100%、保護者 82.6%で、いずれも数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・あいさつの意義を理解して、自ら率先してあいさつする態度を育成し、地域から応援される学校を目指す。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①生徒会を中心とした規範意識向上のための取組の充実 ②道徳の授業の充実	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 96.6%、教職員 96.0%、保護者 84.4%で、いずれも数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・一人一人が国本中学校を代表するという意識を持たせて、マナーアップにつなげられるよう努める。
	B3 学校行事やボランティア活動等を通して、地域の人や保護者と生徒が交流する機会がある。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①地域協議会との交流（茶摘み製茶等） ②地域未来会議の実施 ③親子奉仕作業の実施 ④KLCの活動 ⑤くにもと祭りへの参加 ⑥学校HPやPTA広報部による各行事についての情報発信	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 61.3%、教職員 92.0%、保護者 65.7%、地域住民 100%で、教職員、地域住民は数値指標に達成している。 【次年度の方針】 ・メール配信・HP等を用いて、地域の方や保護者への情報発信を密に行いながら、生徒との交流する機会への情報共有に努める。

B 4 生徒は、家庭学習に進んで取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上		①各教科の授業の振り返りにて、家庭学習のポイントを教授 ②週末課題と自主学習ノートの設定 ③保護者への周知・啓発	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 82.5%、教職員 76.0%、保護者 65.1%と、教職員の肯定的回答が大幅に向上したものの、数値指標達成は生徒のみとなっている。 【次年度の方針】 ・各種学力調査のアンケート結果から、前年度と比べ、今年度の生徒の自主学習への取組状況は明らかに改善されていることから、次年度も今年度の取組を継続し、各教科担任・学級担任が連携しながら一層の充実を図る。
B 5 児童（生徒）は、自分の体力向上を意識して生活している。 【数値指標】 ⇒教職員、生徒、保護者の肯定的回答 80%以上		①体育授業時での運動時間の確保および体を動かすことの楽しさや大切さを中心にそえた授業づくり ②委員会からの呼びかけなども用いた、昼休み時の外遊びの推奨	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒 74.3、教職員 92.0%、保護者 65.0%と、教職員の肯定的回答が大幅に向上したものの、生徒の数値が昨年度より大幅に下がっている。 【次年度の方針】 熱中症予防などの安全対策を定期的に呼びかけながら、委員会活動等で外遊びの推奨を計画的に行う。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

◇全体的には市の平均を上回る傾向にあるが、次の3点が課題として挙げられる。

- ・ A 1 「児童生徒は他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」では、市の肯定的な意見の割合が生徒 89.6%、職員 90.3%、保護者 84.1%であるのに対し、本校は生徒 89.0%、職員 88.0%、保護者 81.8%と全てにおいてやや下回る結果となっている。
 - ・ A 6 「児童生徒は英語を使ってコミュニケーションしている。」では、市の肯定的な意見の割合が生徒 74.2%、職員 92.8%であるのに対し、本校は生徒 70.3%、職員 92.0%とこちらも全てにおいて下回る結果となっている。
 - ・ 地域住民アンケート結果からは B 2 「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」において、市の肯定的な意見の割合は 92.2%であるのに対し、本校は 66.7%とかなり低い。
- 以上3点について原因を分析し、改善するための手立てを具体的に立て、実践していく必要がある。

◇成果として、顕著なものは3点挙げられる。

- ・ A 7 「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている」での肯定的な意見の割合は、生徒は 87.9%で 11.1%増、教職員は 80.0%で 8.1%増、保護者は 63.8%で 0.7%増と、すべての対象で昨年を上回っている。
 - ・ A 1 2 「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」での肯定的な意見の割合は、生徒は 98.3%で 5.1%増、教職員 100%で 6.2%増、保護者 89.4%で 6.1%増と、昨年に比べて上回っている。
 - ・ A 1 3 「学校は一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」での肯定的な意見の割合は、生徒 98.3%で 6.5%増、保護者 86.5%で 7.9%増（教職員と地域住民は昨年同様 100%）と、昨年に比べて上回っている。
- 以上3点については今年度の取組を継続していく。

7 学校関係者評価

- ・ 地域としては生徒と協力しながら活動をしているが、A 1 8 「学校と地域の連携・協力」および B 3 「地域・保護者との交流」について、地域住民は肯定的意見が 100%であるのに対して、生徒は A 1 8 が 76.3%、B 3 が 61.3%と大きな差があることを、数名の方から指摘を受けた。
- ・ アンケートを全体的に見てみると、職員の肯定的意見で 100%という結果が、25項目中10項目と非常に多い。これは今の状態に満足している状況であり、危機感を持ってはいないのではないかという指摘も受けた。
- ・ A 1 1 A 1 2 「いじめ・不登校」については、生徒、職員、保護者、地域住民のほぼ全てにおいて、肯定的意見の割合が高まっているのは、とても良いことだという意見をいただいた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ A 1「児童生徒は他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」の項目については、主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をより進めていくために、ICT 等を利用した個々の授業内容の検討を行う。
- ・ A 6「児童生徒は英語を使ってコミュニケーションしている。」については、その原因を精査するとともに、授業だけでなく日常の学校生活の中で英語に触れ合う機会を増やしていくなど、ALT の有効的な活用等を通して改善を図る。
- ・ A 1 8「学校と地域の協力・連携」 B 3「地域・保護者との交流」については、ボランティア活動や国本リーダーズクラブなど、本校生徒と地域とで活動を行っている実態があるものの、生徒の肯定的意見が全体的に低い状況であることから、HP 等での情報発信や給食時のお昼の放送など用いて、全校生徒に本校と地域との取組の実態について知らせる機会を幅広く設けていくとともに、地域と連携して地域を作っていくことの大切さを伝え、地域連携の活性化に努める。
- ・ B 2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」においては、原因を解明していくとともに、地域の方への挨拶の推進や、登下校での交通マナーの遵守なども呼びかけ、改善に努める。